

平成 29 年度（第 61 回）
岩手県教育研究発表会発表資料

国語分科会

自分の思いや考えを主体的に表現する子どもの育成
～国語科「読むこと」領域の指導を通して～

平成 30 年 2 月 9 日
野田村教育委員会
野田村立野田小学校
嵯 峨 文 裕

I 研究の概要について

平成28・29年度野田村教育委員会指定(国語科) 野田村立野田小学校学校公開研究会

野田小学校の研究の概要

《研究主題》

自分の思いや考えを主体的に表現する子どもの育成
～国語科「読むこと」領域の指導を通して～



「自分の思いや考え」とは…

- 文章や資料を読み取って思ったことや考えたこと
- 自分の経験と照らし合わせて分かったこと
- 筆者の考えや論の進め方に対して感じたこと

内容の取り出し＋解釈

《研究主題》

自分の思いや考えを主体的に表現する子どもの育成
～国語科「読むこと」領域の指導を通して～

「主体的に表現する」とは…

- 目的意識や相手意識をもち、進んで思いや考えを伝えようとする姿。
- 「表現する」ために、読む目的意識と伝える相手意識を押さえた言語活動を設定する。



《研究主題》

自分の思いや考えを**主体的に表現する**子どもの育成
～国語科「読むこと」領域の指導を通して～

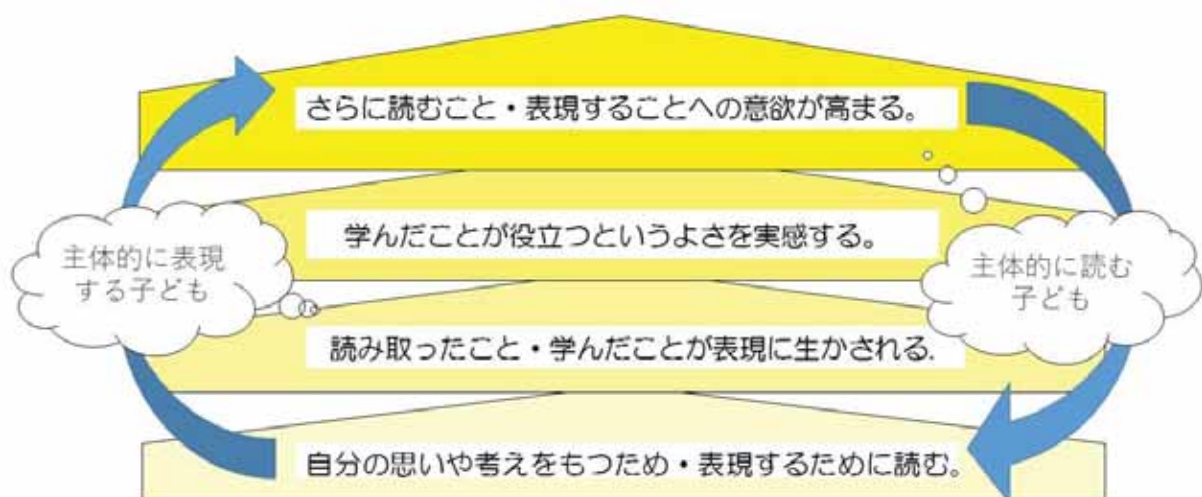
言語活動の内容例

説明 報告 感想
紹介 助言 提案
討論 推薦 など

言語活動の活動例

- 紹介文・報告文・推薦文
- リーフレット・パンフレット
- 新聞・ポスター・プレゼン
- スピーチ・音読・朗読・演技

「主体的に表現する子ども」のイメージ図



《研究主題》

自分の思いや考えを主体的に表現する子どもの育成
～国語科「読むこと」領域の指導を通して～



《目指す子ども像》

- ・書かれている内容を正しく理解した上で、自分の思いや考えをもつことができる子ども
- ・目的意識や相手意識をもち、自分の思いや考えを主体的に表現することができる子ども

《研究主題》

自分の思いや考えを主体的に表現する子どもの育成
～国語科「読むこと」領域の指導を通して～



《目指す子ども像》

- ・書かれている内容を正しく理解した上で、自分の思いや考えをもつことができる子ども
- ・目的意識や相手意識をもち、自分の思いや考えを主体的に表現することができる子ども

研究内容 1

《書かれている内容を正しく理解し、自分の思いや考えをもつことができるような単元構想や学習過程の工夫》

- 付けたい力の明確化
- 「学ぶ」「考える」「伝える」必要感や目的意識、相手意識をもつことができるような単元や本時の学習過程の工夫
- 思考を促す 発問の工夫

研究内容 2

《思いや考えを広めたり深めたりすることができるような交流の工夫》

- 交流の目的、方法、ゴールの明確化
- 交流を 全体の学びにつなげる 手立て

II 研究内容について（研究の実際）

（1）書かれている内容を正しく理解し、自分の思いや考えをもつことができるような単元構想や学習過程の工夫【研究内容1】

ア 付けたい力の明確化

（ア）単元構想メモの活用

構想メモを作成することにより、子どもの実態と単元における指導事項や言語活動にずれがないかを確認することができる。

第5学年 国語科単元構想メモ

平成29年 5月 21日
授業者 嵯峨 文裕

①子どもの実態

○人物の気持ちが大きく変化する部分に着目して読み、どのように変化したのか、なぜ変化したのかを考えるという読み取りの仕方を学んできている。（4年上「走れ」）

●それぞれの場面が、物語全体の中でどのように関連し、どのような役割を果たしているのかを考えて読む力は身に付けていない。

●昨年度実施の標準学力調査においても、

②付けたい力（重点指導事項）

◎登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる力（C 読むこと（1）エ）

③単元の言語活動

物語の山場で起きる変化（主題を考える手がかりになる部分）とそれに対する自分の思いや考えを、物語の「おもしろさ」として、友達と伝え合う。

④言語活動の特徴と指導事項（付けたい力）との関連

物語の山場で起きる変化について考えるだけでなく伝え合う活動を設定することで、子どもが目的意識をもって物語を読むこと、山場を強く意識して読むことにつながる。山場に注目した読みを展開することで、「山場に向かっていく場面」や「始めの場面」や「終わりの場面」がどのように関連付けられているのかもとらえることができる。また、山場を意識した読みは、物語の主題に迫る読みにもつながってくるので、物語を読むことのおもしろさや価値に気付かせることにも有効だと考える。

| | |
|---|---|
| 1 | 単元名 山場をとらえ、物語の「おもしろさ」を友達に伝えよう |
| 2 | 単元の目標 物語の構成をとらえ、山場で起きた変化について考えることができる。 |
| 3 | 単元の評価規準 ◎場面と場面のつながりをとらえ、物語の構成を理解し、山場で最も大きく変わったことは何かを考えながら読んでいる。C（1）エ |
| 4 | 教材 「世界でいちばんやかましい音」（東京書籍 P47～63） |

- 単元での指導事項に関わって、身に付いていることと身に付いていないこと
- この単元に至るまでの学習歴とその結果
- この単元で児童に付けたい力について

- ◎「読むこと」の目標
- どんな能力を身に付けさせるのか
（学習指導要領から）
- 本単元で扱う中心となる内容

- 学習指導要領解説の言語活動例なども参考にしながら単元における言語活動を具体的にまとめる

- 設定した言語活動の一般的な特徴の説明
- 言語活動が、付けたい力とどのように関わるのか
- 言語活動と付けたい力との関連から、どのように指導したいのか

イ「学ぶ」「考える」「伝える」必要感や目的意識、相手意識をもつことができるような単元や本時の学習過程の工夫

(ア) 読む力を身に付け、思いや考えを主体的に表現することができるような単元の学習過程

| 第一次 単元の学習を見通す | つかむ 見通す | 主な学習活動 | 指導上の留意点 |
|------------------|----------------|--|---|
| | | <p>○<u>子どもの実態と付けたい力を確認する。</u>…ア</p> <p>○<u>読む目的と単元のゴールを明確にする。</u>…イ</p> <p>○<u>魅力的な表現のモデルを示す。</u>…ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全文通読・初発の感想をもつ。 ・単元の目標を意識した学習課題を設定する。 ・指導事項を確認する。 ・おおまかな内容、段落構成、文章構成等をつかむ。 <p>○<u>学習計画を立てる。</u></p> | <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して、どのような言語活動を行い、どのように教材文を読んでいくのかを明確にし、読む目的と学習意欲をもたせる。 ・他教科や読書活動との関連を図る。 |

実践例 第3学年 単元名 「かくれ身のじゅつをあげ。虫たちのにんぼうを調べて、2年生にしようかいしよう」
学習材名「自ぜんのかくし絵」（東京書籍）

アについて

子どもの実態

- ・時間や事柄の順序を表す言葉に注意しながら読むことはできる。
- ・文章の内容を段落のまとまりで捉えて読むことや段落を意識して文章を書くことは難しい。

付けたい力

- ・段落ごとの内容を捉えながら文章を読むこと。

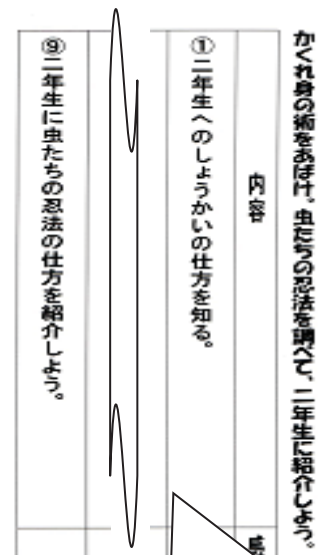
イについて

読む目的と学習意欲をもたせるために、「虫たちの身を隠す技・忍法をまとめた巻物を作り、生活科で虫のことを学ぶ2年生に虫の世界の面白さを伝える」ことを確認した。

ウについて

成果物となる巻物を提示し、学習のゴールについてのイメージをもたせた。

2年生にわかりやすく伝えるために、巻物は段落ごとに大事な言葉を押さえながら、短い言葉で簡潔にまとめた。



学習の見通しと単元のゴールを確認した。



| | | | |
|-------------------------|-----|---|--|
| 第二次 表現することにつなげる読みをする | 深める | <p>○教材文を目的的に読む。…エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付けたい力を明確にして読む。 <p>説明的文章…時間や事柄の順序，段落相互の関係， 事実と意見，要旨</p> <p>文学的文章…場面の様子，移り変わり，描写 人物の行動，性格や気持ち，相互関係</p> <p>○交流により，自分の思いや考えを深め，広げる。…オ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアや小グループでの交流 ・自分の考えの再構築 <p>○読み取った内容や自分の考えを表現する活動を行う。…カ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・指導事項を確実に身に付けさせる手立てを講じる。 ・子どもの思考を促すような発問を工夫する。 ・子どもの思考を促したり助けたりするようなワークシートや掲示の工夫をする。 ・「単元の言語活動」と本時の学習活動が密接に結び付くようにする。 |
| | | | |

実践例 第2学年 単元名 「人ぶつのようにすをそうぞうして，音読げきをしよう」

学習材名 「名前を見てちょうだい」（東京書籍）

○単元で付けたい力 登場人物や場所の移り変わりに気を付けて場面を分け，場面の様子について登場人物の行動を中心に様子を豊かに想像しながら読む力

エについて

場面ごとに場所と登場人物を確かめ，それぞれの場面について，挿絵も活用しながら登場人物の行動や会話に着目させ，様子を想像して読ませていった。



オについて

登場人物の行動や会話に着目して読み取ったことをもとにして，交流を行わせた。声の大きさを考えたり，動作を付けたりしながら，ペアごとに音読の仕方を考えさせた。



カについて

単位時間ごとに読み取った登場人物の様子を確認し，動作や声の大きさを工夫しながら音読した。



| | | | |
|----------------------------|-----------------|--|---|
| <p>第三次 読みを生かして表現する</p> | <p>生かす・まとめる</p> | <p>○第二次で身に付けた力を活用する。…キ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習を振り返り、身に付けた力を確認する。 ・誰に何のために伝えるのかという目的意識・相手意識を持ち、自分の思いや考えを表現する。 <p>○自分の思いや考えを表現する。…ク</p> <p>○単元の学習を振り返る。…ケ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・読み取りを生かして、自分の思いや考えを表現できるようにする。 ・作品や成果物、表現活動を通して交流を深め、達成感を味わわせるようにする。 ・身に付けた力をメタ認知させるような振り返りを位置付ける。 |
| <p>第四次</p> | <p>広げる</p> | <p>○単元を通して学んだことを他学年や家庭・地域に発信する。…コ</p> <p>○学習に対する評価をフィードバックする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・国語に対する興味関心、実社会に役立つ有用感を高めるようにする。 |

実践例 第1学年 単元名 「どうぶつのみのもりかたをよみとり、ずかんにまとめよう」
 学習材名 「どうやってみをまもるのかな」(東京書籍)

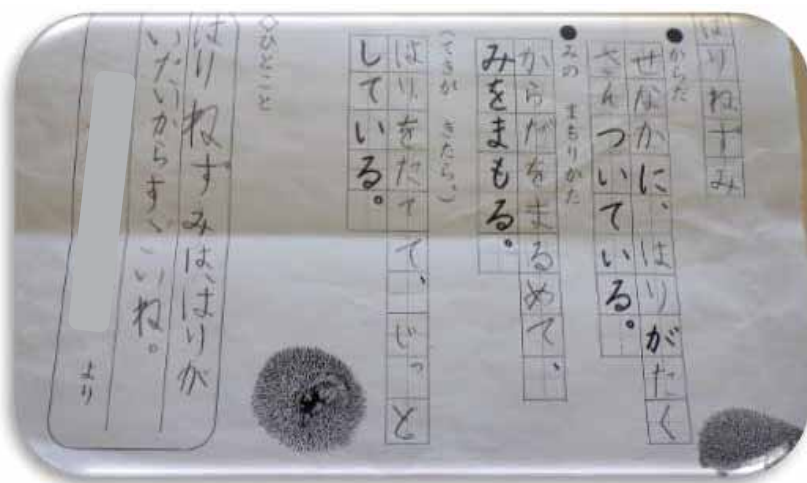
○単元で付けたたい力 書かれている内容を事柄ごとに正しく読み取り、大事な言葉や文を書き抜く力

キについて

他の動物について、教材文と同じ文型にリライトした資料を読み、第二次で身に付けた大事な言葉を書き抜く力を活用して図鑑のカードを増やしていった。

クについて

読み取ってまとめたことについて、他者に伝える意識を持たせるために、「すごいぞ!」のひと言をカードに書き添えさせた。



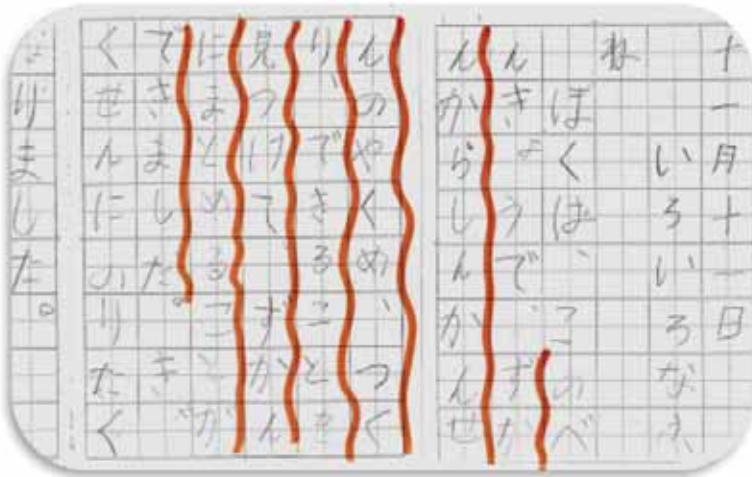
第一次でリライトした文章とカードを提示し、言語活動のイメージをもたせた。第三次では、リライトした文章から他の動物について図鑑のカードにまとめさせた。

合わせて第一次から、動物についての読みものの並行読書に取り組んだ。

ケについて

単元の学習を通して、どんな力が身に付いたのかを文章で表し、メタ認知させた。

※一年間で身に付けた国語の力については、記述式のアンケートでメタ認知させる。



コについて

単元を通して学んだことを図鑑にまとめ、地域の保育所で読んでいただいた。



<保育所からお礼に届いた手紙>

(イ) 読む力を身に付け、思いや考えを主体的に表現することができるような**本時の学習過程**

| | 学習活動・学習内容 | 指導の手立て |
|-------------------------|--|---|
| 導入 (5 ~ 10分) | <p>○前時までの学習の想起</p> <p>○読む目的を確認 (単元のゴール, 単元の言語活動)</p> <p>○本時の学習課題の把握</p> <p>○付きたい力の確認 ※読みの視点となる</p> <p>問いと答え, 事柄や時間的順序, 段落構成, 事実と意見, 要旨, 場面, 登場人物の心情, 人物の相互関係など</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・何のために読み, 誰に対してどのように表現していくのか目的意識や相手意識をもたせる。 ・授業の終わりにはどのような力が身につけていて, どのようなことができるようになっていけばよいのかの見通しをもたせる。 |
| 展開 (25分 ~ 35分) | <p>○学習範囲の音読</p> <p>○課題解決 (一人読み) サイドライン・書き込み・書き抜き・メモ・資料活用</p> <p>○課題解決 (交流) → ペア・グループ・全体</p> <p>○課題解決 (全体)</p> <p>○読み取ったことを表現し, 交流 書きまとめ・発表・紹介・協議・討論</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・目的にあった音読の仕方を工夫する。 ・必要に応じてサイドラインや書き込み, メモ等をしながら読ませる。 ・読みの視点に沿って読み取らせる。 ・読み取ったことを表現に生かせるように, 板書計画やワークシートの形式を工夫したり, 読書環境を整備したりする。 ・自分の考えを深め, 広げることができるような交流の在り方を工夫する。 ・表現する際には, 目的意識や相手意識をもたせるようにする。 |
| まとめ (5 ~ 10分) | <p>○本時の課題に対してのまとめ</p> <p>○本時の学習の振り返り</p> <p>○次時の学習の見通し</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題解決として, 読み取ったことや思いや考えをまとめる。 ・身に付いた力をメタ認知させるような振り返りを位置付ける。 |

実践例 第5学年 単元名 「物語の『おもしろさ』をとらえ、ブックトークをしよう」
学習材名 「注文の多い料理店」

本時の指導 (6/12)

(1) ねらい

物語全体を通した紳士たちの変化を読み取り、自分の考えをもつことができる。

(2) 展開

| | 学習活動・学習内容 | 指導の手立てと評価 |
|-----------|---|--|
| 導入 3分 | <p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">二人の紳士は変わったのか。</div> <p>2 課題解決の見通しをもつ。</p> | <p>○前時までの学習を振り返り、紳士たちが戸の言葉の本当の意味に気付いたことを押さえて、本時の学習課題につなげる。</p> <p>○再び「現実の世界」に戻ってきた場面を読み、紳士たちの様子を読み取ることが課題解決に有効であることに気付かせる。</p> |
| 展開 35分 | <p>3 学習課題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紳士たちの変容を考える。 ①一人読み（黙読・サイドライン） ②小グループ ③全体 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><変わらなかったところ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・二人の横柄な態度 ・生き物の命を軽視しているところ ・見栄っ張り <p><始めの場面とちがうところ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙くずのような顔が元に戻らないこと </div> <p>・紳士たちの変容も物語の「おもしろポイント」であることを押さえる。</p> <p>・紳士たちの変容について自分の考えを書く。</p> <p>・考えを交流する。</p> | <p>○第6場面の紳士たちの様子を読み、変わったところと変わらなかったところを見つけさせる。</p> <p>○「二人の紳士は変わったのか。」と問い、叙述に基づいて考えを説明させるように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><評価規準></p> <p>A 物語全体を通した紳士たちの変化を読み取り、物語の主題にふれながら、自分の考えをもっている。</p> <p>B 物語全体を通した紳士たちの変化を読み取り、自分の考えをもっている。</p> <p>Bに到達させるための手立て</p> <p>これまでのワークシートや学習掲示で既習場面の紳士たちについての叙述を確かめながら、紳士たちの様子や考え方は同じかどうかを問いかける。</p> </div> <p>○「紙くずのような顔」が元に戻らなかったことについてどう思うかを問う。</p> |
| まとめ 7分 | <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題に対してのまとめをする。 ・振り返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><振り返りの観点></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎解説したいおもしろポイント ◎今日の学習で分かったこと ◎交流について </div> <p>5 次時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時は、これまで学習してきた表現の工夫を確かめる学習をするという見通しをもつ。 | <p>○本時の学習を振り返り、自己評価をして自分のがんばりや学習の成果、身に付いた力を実感し、成就感をもつことができるようにする。</p> <p>○学習計画表に振り返りを書かせるようにする。</p> <p>○観点に関わる振り返りをしている子どもを意図的に指名し、価値付けを図る。</p> |

(3) 板書計画

| | |
|---|--|
| <p>物語のおもしろさをとらえ、ブックトークをしよう。 「注文の多い料理店」 二人の紳士は変わったのか。 宮沢 賢治</p> | |
| 料理店を見つける前 | 料理店を出た後 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスの兵隊の… ・何でもかまわないから… ・二千四百円の損害だ。 ・山鳥を十円も… | <ul style="list-style-type: none"> ・「おうい、…早く来い。」 ・十円だけ山鳥を買って… |
| <ul style="list-style-type: none"> ○動物の命を軽く見ている。 ○見栄っ張り | <ul style="list-style-type: none"> ○見栄っ張り ○えらそう ○懲りていない |
| <p>始めの場面と同じところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分勝手な態度 ○えらそうにするところ ○動物の命を軽く見ている | <p>始めの場面とちがうところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○紙くずのような顔 |

【おもしろポイント】

- ☆始めと終わりの場面が対比している。(物語のしかけ)
- ☆同じ表現のくり返し(山鳥を買って…)
- ☆たとえを使った表現(紙くずのような…)

- ◎中身は変わっていない。助けてもらっても偉そうにしている。
- ◎顔だけが変わった。自然からの仕返しではないか。
- ◎自分たちのおろかさには気付かない。

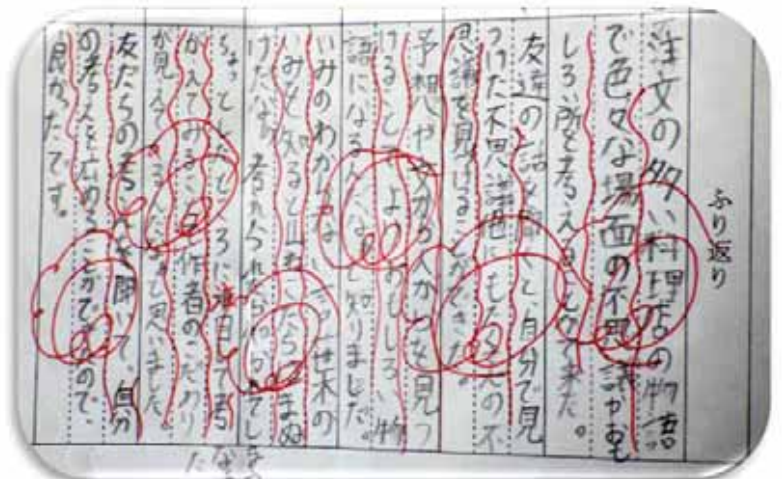
<交流の様子>



個々の読み取りをさらに深めたり広げたりするために交流を位置付けた。

<子どもの振り返り>

その日の学習で身に付いたことや学習したことを観点として振り返りをさせた。



ウ 思考を促す発問の工夫

子どもの思考を働かせ、気付きを深めたり、思いや考えを引き出したりするためには、発問の工夫が必要である。

< 気付きを深めるための発問例 >

- ・ どうして～と思いましたか。(根拠を掘り下げる発問)
- ・ どの部分からそう考えましたか。(叙述に即して読むための発問)

< 思いや考えを引き出すための発問例 >

- ・ 引用文としてふさわしいのは、どの文章ですか。(検討させるための発問)
- ・ もし～だったら… もし～でなかったら… (知識や経験と結び付けて思考させるための発問)
- ・ 納得したところはどこですか。(自分の考えを引き出すための発問)
- ・ ○○と△△を比べて、共通点や相違点がありますか。(思考の焦点化)

文学的文章で人物の変化を読み取る学習においては、以下のような発問が有効である。

Q 「誰が」変わったか?

Q 「どこで」変わったか?

Q 「誰によって」変わったか?

Q 「どのように」変わったか?

Q 「なぜ」変わったか? (ゆさぶりの発問・子どもたちなりの解釈を問う)

このような発問を軸にして授業を組み立てていくことで、子どもたちの思考が深まり、叙述に即して考えを伝え合うような場面を生み出すことができる。

実践例 第4学年 単元名 「人物の変化をとらえて、本の紹介をしよう」
学習材名 「走れ」(東京書籍)

< 中心となる人物の変化の理由を考えさせる発問 >

※前時までに、「どこ」で「どのように」変化したのかを押さえている。

T 今まで、どんなことを学習していましたか。

C 人物の変化を読み取る。本の紹介をする。

(略)

T 「どのように」変化したか勉強しました。

昨日は「どこ」で変わったか見つけたけど、どこですか。

C おねえちゃんいけ、のぶよいけ ～ そのまんま走れ。

T 昨日は「どこ」を見つけたので、今日は「なぜ」を見つめます。(略)

T 「走れ、そのまんま走れ。」には、どんな気持ちが込められているんだろうね。

C がんばってほしい。

C くじけそうだから、くじけずに走ってという意味を込めた。



心情曲線を用いて、「変化のきっかけ」を視覚的にも理解させ、場面の焦点化を図った。

C ぶりでもいいから。
 C けんじもお母さんも、ぶりでもがんばってほしいと思う
 気持ち。

(略)

T のぶよにからみついた思いって何でしたか。
 C けんかのこと。
 C 去年ぶりだったこと。
 C 走ること。
 T 「わたしだって本当は」の続きから考えてみましょう。
 C けんじみたいに走りたい。
 C さみしかった。
 C お母ちゃんに見てほしかった。応援してほしかった。
 T 体にからみついていた思いとこれは似ている。
 C 逆。

(略)

T なぜ、大きく変わったのでしょうか。
 C けんじとお母ちゃんが応援してくれたから。
 T のぶよは家族についてどう思っている？
 C 応援してくれてありがとう。
 C この家族に生まれてよかった。
 C 仲が直ってよかった。

(略)

「走れ！そのまんま走れ！」と
 「体にからみついていたいろんな思い」の思いを考えさせることで、のぶよの気持ちが変わった理由を把握させていく。



(2) 思いや考えを広めたり深めたりすることができるような交流の工夫の工夫
【研究内容2】

ア 交流の目的, 方法, ゴールの明確化

交流とは、自分の思いや考えについて、言葉を通して伝え合うことである。友達と一緒に思考し、考えを出し合い、解決のための手立てを共に練り上げていくような交流の場を位置付けていく。

ペアやグループで交流をする場合、交流の目的（何のため）、交流の方法、交流の方向性（収束・拡散）、役割分担などを丁寧に指導する必要がある。交流の中での思考や判断のぶつかり合いが、自分の思いや考えを広げたり深めたりする場となり、表現力を高める場にもなり得ると考える。また、交流の質を高めるには、日常的・継続的に「話す・聞く」のスキルアップを図っていく必要がある。そのためには、誰とでも自然に会話ができるような学級の雰囲気づくりと、他教科においても、子どもが思いや考えを伝え合うことができるような意図的な場の設定が大切である。

「考えを形成させるため」に、国語科では、「どの叙述からそのように考えたのか」を十分に引き出すことが大切。

(ア) 交流を行わせるときの指導者側の観点

| 交流の要素 | 具体的な内容 |
|------------------|---|
| 目的 | 考えを「確かめる」「比べる」「選ぶ」「広げる」「深める」「まとめる」 |
| 形態 | ペア・小グループ（3～4人）・グループ（5～6人）・全体 |
| 内容 | 思いや考えの交流・感想の交流・つまずきの共有と解決 |
| 方法 | 伝え合い（ペア対話・グループ交流）・討論・協議・座談会 等 |
| 支えるもの 質を高めるもの | <ul style="list-style-type: none"> ・「話す」「聞く」のスキルアップ（話型カードの使用 等） ・誰とでも自然に会話ができるような学級の雰囲気づくり（学級経営） ・他教科での積極的な交流の場の設定 |

観点の中で、交流の「内容」,「目的」,「方法」については、子どもと共有することが大切である。特に「内容」と「目的」については、子どもの必要感や有用感が必須になってくる。

子どもが自分の思いや考えをもち、交流の場が自分の考えの再構築, 補充, 深化に有効な場になるように配慮して設定していく。

(イ) 交流における目指したい子どもの姿（第5学年「世界でいちばんやかましい音」）

私は、「ガヤガヤの町」の人たちは、ただ静かになっただけでなく、思いやりの気持ちも持つようになったと思うよ。(自分の考え)

なぜ、そう思ったの?
・どの部分からそう思ったの?
(思考を深める切り返し)

だって、最後の看板のところの、「ようこそ」って言葉から、他の人を大事にしている感じが伝わってきたからだよ。
(叙述に基づいた考え)

イ 交流を全体の学びにつなげるための手立て

(ア) 交流の位置付け方と学習活動の流れ

交流の場を設定する際には、子どもの実態や思考の流れを考慮して計画することが大切である。単に「個→ペア（グループ）→全体」と固定化・形式化せず、交流の観点に応じて、弾力的に位置づけられるようにしていく。

(イ) 交流を位置付ける際の指導者の役割

交流が単に自分の考えの発表の場で終わってしまわないようにするためには、指導者の意図的で適切な関与が必要となる。交流の前、交流中、交流の後での指導者の役割を意識して指導にあたっていく。

| 段階 | 指導者の役割 | |
|-----|--|-------------------------------|
| 交流前 | ○個の意識や考えの把握 | ○交流の観点の確認と児童との共有 |
| 交流中 | ○計画的な見取りと評価 ◎望ましい活動の紹介（交流のスキル・ねらいに迫る考え） | ◎滞っているペア・グループへの支援 ◎全体交流の計画 |
| 交流後 | ○学習のまとめ | ○交流の価値付け |

実践例 第6学年 単元名 「説得の工夫を読み取り、新聞に投書しよう」
学習材名 「新聞の投書を読み比べよう」（東京書籍）

○ねらい（5／9時間目）

理由付けの仕方や根拠の挙げ方に着目して投書を読み比べ、読み手を説得するための工夫を読み取る。

- ①説得するための工夫「説得の技」を読み取るため、各投書の主張と根拠・理由にサイドラインを引き、ペアで交流



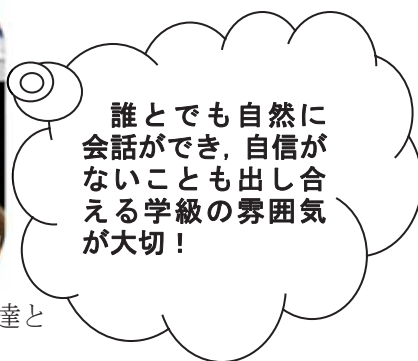
考えを伝え合いながら、友達と自分の考えを比べる。



自分の考えを友達にアドバイスする。



自信がないことについても、友達と伝え合う。



全体の交流につなげるために迷いを確認する。

② 2つの投書について、主張と理由を全体で交流

T 不安なところをみんなで考えていきましょう。
 投書1の主張は何ですか。
 (略)
 T 当初1の加東さんは、「スポーツは～価値がある」の理由をどう述べていますか。
 C 第一の理由は、～反するからだ。第二の理由は、特に成長期の～壊しやすいからだ。
 C わたし自身、～続けられなくなった。
 (略)
 T (投書4について) 悩んでいる人に聞いてみます。
 C 柔道の金メダリスト古賀～本番では勝てない、というところに線を引きました。けど・・・
 T 線を引いたんだけど、何が けど？
 C・・・
 T ○○君、お助け。
 C 書いてあることは全部、「限界までに～価値がある」につながると思うので、理由なのかな。
 (略)

ペアでの交流の際、思考が滞っていたグループから迷いを吸い上げて、全体で考えさせた。

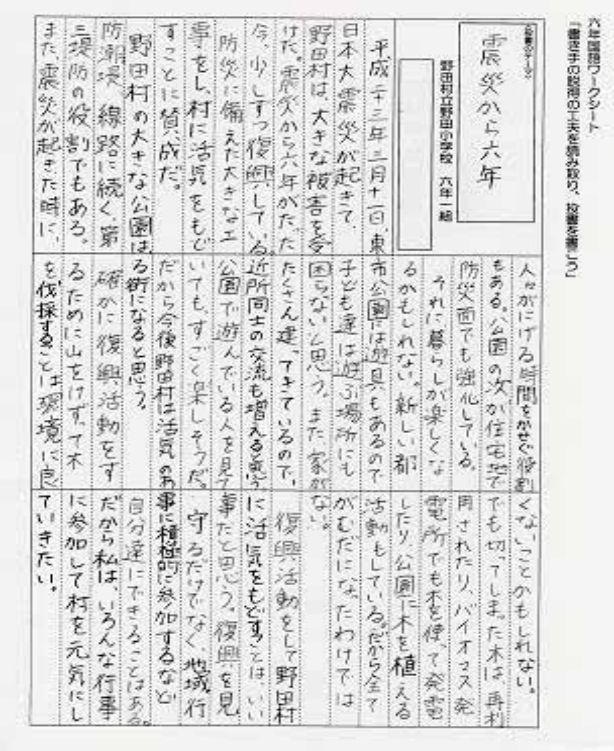
③ 2つの投書の「説得の技」について、全体で交流

T 投書を書いた人は技の工夫をしています。(投書1) 加東さんの技を教えてください。
 C 実際に経験したこと。
 (略)
 T (投書4) 大木さんが使っている技。悩みながらも書いた人。
 C 有名な人が言った言葉。
 T 例えば誰ですか。この中で言うと。
 C スポーツ選手。
 C 有名人の言葉。
 T 例えば、村松先生の言葉を載せたら説得力あるかな。
 C いや。
 C ない。
 C すごい人だから説得力がある。
 (略)

有名な人の言葉を引用するという「説得の技」を価値づけた。



全体での交流後に、自分が投書を書く際に使いたい「説得の技」を選び、その理由を付箋に書かせた。



<第三次で児童が書いた投書>
 18

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究の成果

研究主題・目指す子ども像に関わって

- 子どもたちが「自分の思いや考え」をもち、主体的に表現することができた。
- ・付けたい力を意識した単元構想や学習過程が組んだことにより、学習課題や問いが、子どもたちの思いや考えを引き出すものになっている。
- ・目的意識や相手意識を意識して言語活動を設定したことにより、子どもたちが主体的に学習材文や並行図書を読んでいる。
- ・子どもたちに学びの見通しをもたせること、ゴールを示すことで、音読や発表、考えの交流などの場面において、主体的に表現する姿を引き出すことができた。

研究内容に関わって

- 「書かれている内容を正しく理解」するための読みを整理することができた。
 - ・単元構想メモや指導事項マトリックスを活用し、子どもの実態と指導事項に適した言語活動を位置付けることができた。
 - ・読む目的、読みの視点、一人読みの方法（サイドライン、書き込み、書き抜き、付箋活用等）が確立され、子どもたちに学び方が身に付いている。
 - ・一単位時間や単元の学習過程に振り返りを位置付けたことで、子どもたちが身に付いた力をメタ認知することができ、学びの有用感をもたせることができた。
-
- 交流を通して、自分の考えの「自覚」「構築」「再構築」ができていた。
 - ・交流や対話を意識した学習過程が組まれている。学級経営の充実が基盤となっている。
 - ・交流の在り方（必要感・思考の流れ・指導者の役割・話す力・聞く力）を意識して、授業を進めることができた。

2 研究の課題

研究主題・目指す子ども像に関わって

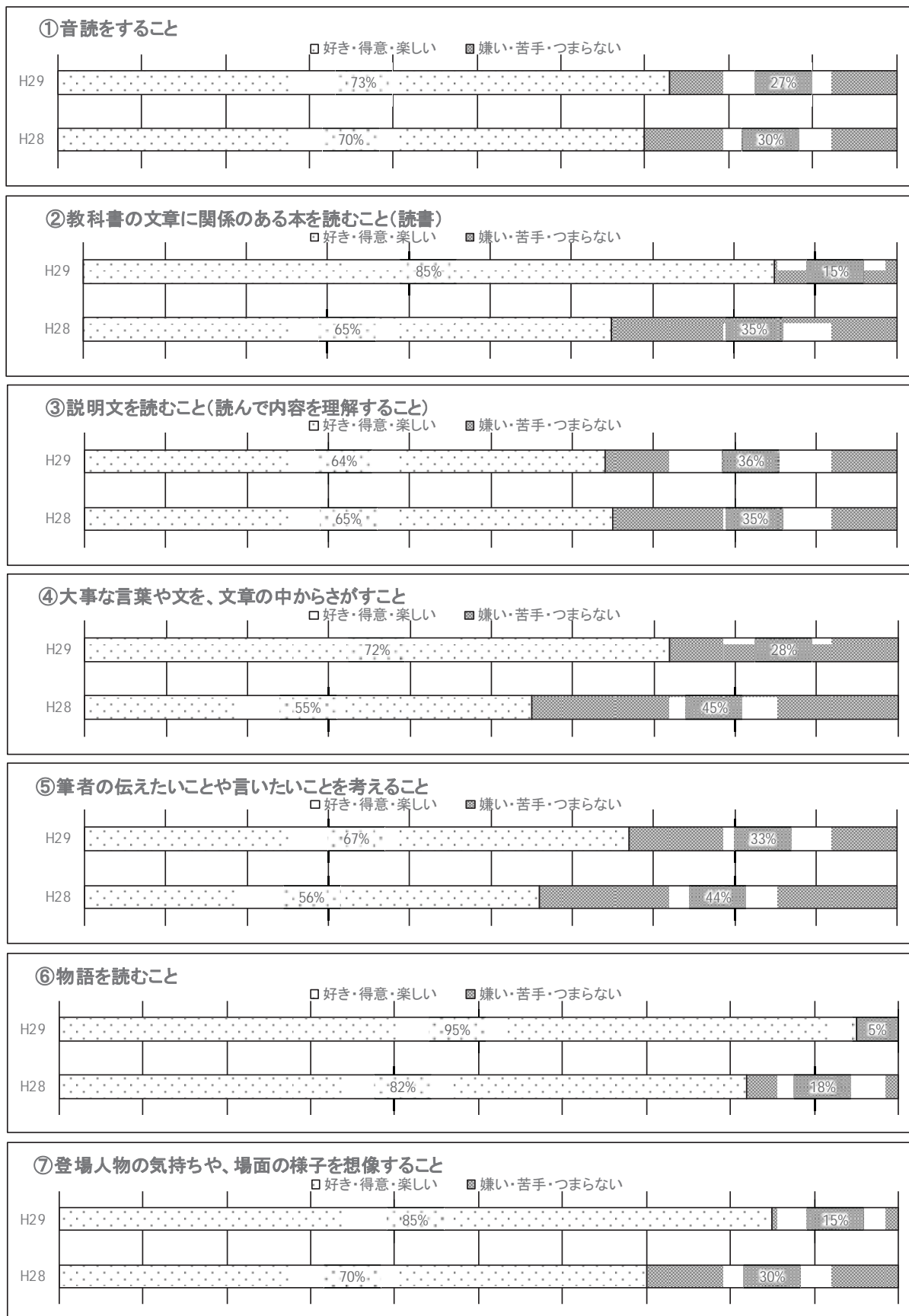
- 「読む力」の向上を図る必要がある。
- ・内容の正しい理解については、低位の子どもたちに照準を定めた分かりやすい発問を吟味することや、交流中の支援、全体での学び合いの指名順など、具体的な手立てを講じていきたい。
- ・単元構想メモを活用し教材分析の質を高め、文学的文章の読みの指導を充実させていきたい。

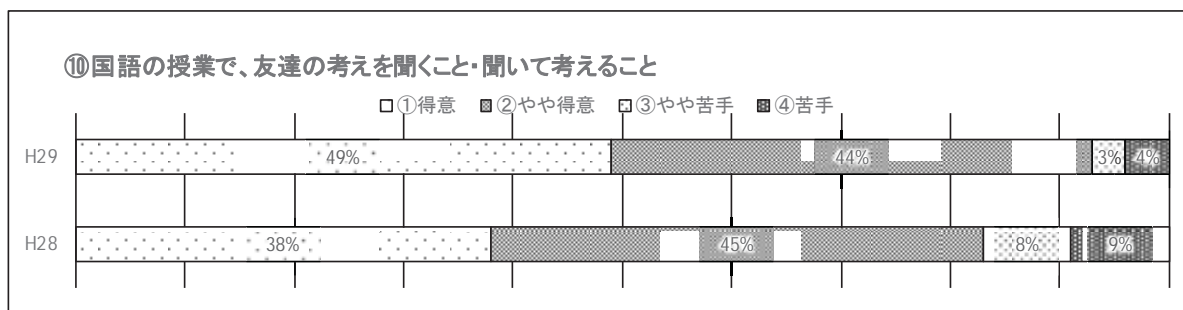
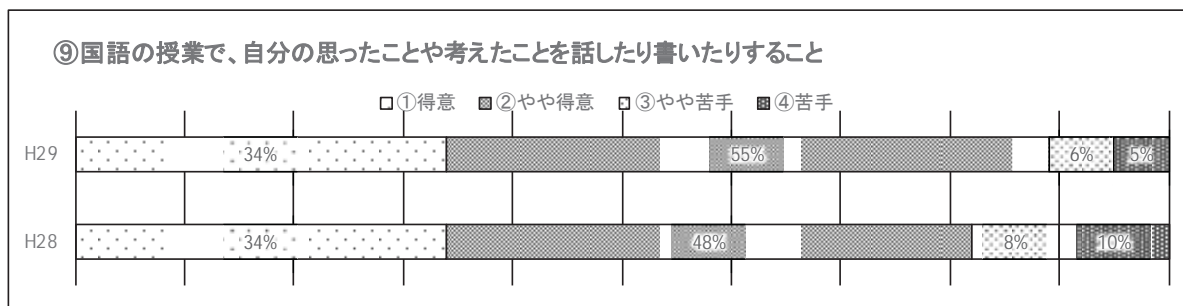
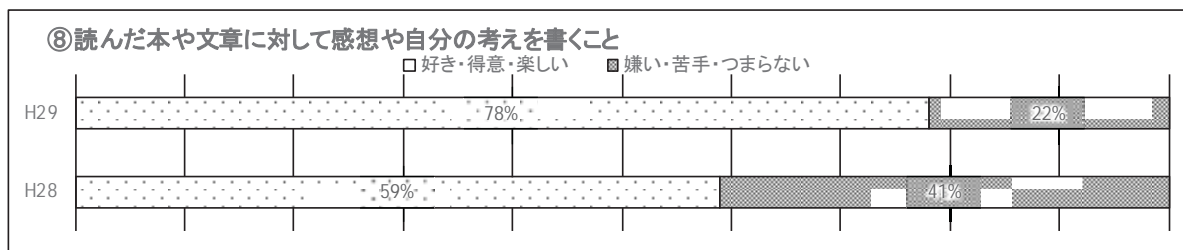
研究内容に関わって

- 子どもたちが「自分の思いや考え」を持つことができるような発問をより充実させていく必要がある。
 - ・思いや考えを引き出すための発問の質やタイミングを吟味していきたい。
-
- 交流の在り方はさらに吟味が必要である。
 - ・交流における指導者の役割をさらに明確にし、実態や目的に即した導き方を探っていきたい。

IV 資料等

1 児童の国語科の学習に対する意識調査 (H28年度とH29年度の比較)





1年間の国語の授業でどのような力を身に付けたか。(H29の記述アンケート結果)

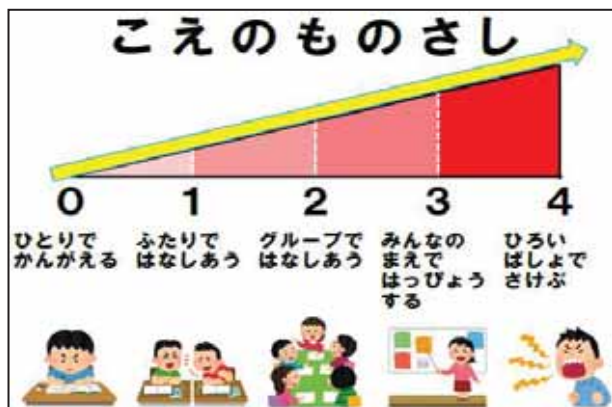
| | |
|-----|---|
| 1年生 | (読) いい声で音読する 大事な言葉をさがしてサイドラインを引く (話聞) ペアで話す (書) 図鑑の文を書く (言) 漢字やカタカナを書く 漢字を使って文を作る ていねいな字で書く 「」の使い方 |
| 2年生 | (読) 大きな声で音読 音読劇の動き 場面に分ける 振り返りができる 想像する力 (話聞) はっきり話す 交流が好きになった 友達のことを聞く (書) 感想を書く 思ったことをたくさん書く クイズをつくる (言) 字を速く書く |
| 3年生 | (読) 様子を思い浮かべて音読する 要約して文章を短くまとめる 意味段落に分ける 場面に分ける 登場人物の気持ちを考える (話聞) 考えを発表する (言) 辞典の使い方 主語と述語 慣用句 |
| 4年生 | (読) 人物の様子や気持ちを考える 物語を読んで、想像する (話聞) グループやペアで話し合っ、意見を出す (書) 新聞を書く 書いた文章を推敲する (言) 漢字の読み書き |
| 5年生 | (読) 工夫して読む 山場を考えて読む 文章の構成を考える 擬音語や擬態語、例えがわかる おもしろポイントを探して読む 登場人物の気持ちや筆者の伝えたいことを読み取る (話聞) 自分の考えを発表する 交流で意見を深める (書) 文を長く書く (言) 漢字を覚えた 辞書で調べる |
| 6年生 | (読) 文章の構成を考える 説明文の内容理解 重要な言葉を文から探す 登場人物の気持ちを想像しながら読む 筆者の伝えたいことがわかる すらすら音読する (話聞) プレゼンテーション (書) 考えや感想を書く 考えをまとめる (言) 漢字を覚える |

2 研究を支える取り組み

○学習習慣について教職員間で共通理解を図る。(資料1)

| 学校における学習規律の形成 | | 家庭における学習規律の形成 | | |
|--|--|---|--|--|
| 学習への心構えと物の構え | 学習姿勢 | 家庭学習 | 翌日の準備 | |
| <p>心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を守って席につき、先生を待つ。 <p>物構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業が終わったら、次の授業の用意をしておく。(教科書、ノート、筆記用具等を机の上に置く。) <p>筆記用具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆・消しゴム ・赤ペン・青ペン・定規 <p>例</p> <p>筆記用具</p> <p>教科書 ノート</p> <p>授業の挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「起立」 ・「これから○○(教科)の学習を始めます。」 ・「これで○○(教科)の学習を終わります。」 ・「はい」 ・「はい」 ・「着席」 <p>特別教室の移動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動は2列で静かに廊下の右側を歩く。 ・使った教室の机や椅子、使った物をもとの位置に戻す。 | <p>座り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いすを引き寄せ、良い姿勢で座る。 <p>立ち方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いすを後ろへ下げ、いすの脇に立つ。 <p>聞き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔を上げ話す相手を見て聞く。 ・相手の意見を大切にし、うなずき等しながら聞くようにする。 <p>話し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指名されたら「はい」と返事をし、いすの脇に立つ。 ・その場にあそびの音ではつきりと話す。 <p>書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートから30cmぐらい顔を上げて書く。 ・正しく鉛筆を持つ。 ・作業が終わったら筆記用具を置き、静かに待つ。 ・シャーペンは使わない。(使う時は、先生の許可を得る) | <p>【聞くことのため】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●話す人の方を向いて聞く。 ●話す人の目を見て聞く。 ●うなずきながら聞く。 ●よい考えには拍手をする。 <p>【話すことのため】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●聞いている人の方を向いて話す。 ●一番遠くにいる人にも聞こえるように話す。 ●よい考えには拍手をする。 ●最後まではっきり話す。 ・「わたしは～だと思います。」 ・「わけは、～です。」 ・「答えは～です。」「同じです。」 ・「○○さんと同じで～です。」 ・「○○さんが話してくれたから、～だとわかりました。」 | <p>○宿題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリント、ドリル、日記などの担任から出された課題 <p>○一人勉強</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で課題を見つけ取り組む ・児童の実態、目的に合わせて取り組む <p>○音読</p> <p>音読のため</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はっきり ・すらすら ・大きな声で <p>※時間の目安</p> <p>1年：20分以上 2年：30分以上 3年：40分以上 4年：50分以上 5・6年：60分以上</p> <p>※ノーマディアで(テレビを消して)家庭学習に取り組む習慣をつける。</p> <p>※土、日の宿題は適宜</p> | <p>・時間割、連絡帳を見て必要な学習道具をそろえる。</p> <p>・毎日必要な物をそろえる。</p> <p>・忘れ物がなにか確かめる。</p> <p>※学習に関係ないものは学校に持って行かない。</p> <p>※必要な物 教科書、ノート、ドリル類の他に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆5本 ・白い消しゴム ・赤ペン ・青ペン ・定規 ・下敷き |

○学習掲示・教室環境の整備・充実(資料2)



<資料1>

年度初めの校内研究会において、学習習慣や学習の仕方について職員間で共通理解を図り、基本的な学習規律が身に付くような指導を行った。

<資料2・3・4>

「話すこと」「聞くこと」のスキルアップのために、学級の前面に全学年共通で「こえのものさし」や「話すこと・聞くことのため」を掲示した。

○「話すこと」「聞くこと」のスキルアップ(資料3)

「聞くこと」のため

- 話す人の方を向いて聞く。
- 話す人の目を見て聞く。
- うなずきながら聞く。
- よい考えには拍手をする。

●話す人の考えと自分の考えを比べながら聞こう。

●積極的に質問しよう。

「どう思う?」「どこからそう思った?」
「なぜそう思ったの?」「それはどういうこと?」

「話すこと」のため

- 聞いている人の方を向いて話す。
- 一番遠くにいる人にも聞こえるように話す。

○「話すこと」「聞くこと」のスキルアップ（資料4）

| | | | | | | | | | | |
|----------------------|--------------------------|--------------------|----------------------|----------------|-----------------|----------------------------|------------------------|-----------------------------|-------------|-------|
| ◎交流やスピーチのときに、使ってみよう！ | 結論・まとめ | 言い換え | 付け足し | 具体例を示す | 仮定・推測・予想 | 反対・否定 | 理由・原因 | 話す内容 | 「伝える」達人になろう | 話し方の例 |
| | 「つまりです。」「まとめると〜いうことです。」「 | 「言い換えれば」「別の言葉で言う」と | 「その他にも」「付け足すと」「〜もある」 | 「たとえば」「たとえるなら」 | 「もし、〜だったら」「たぶん」 | 「それは〜からです。」「わけは〜と思うからです。」「 | 「でも」「だけど」「〜と別な考ええんだけど」 | 「それはい〜からです。」「わけは〜と思うからです。」「 | | |

○授業と連動させた家庭学習の習慣化（資料5）

家庭学習の手引き

6年生

○家で 学習する 習慣を つけましょう。
○学習したことを しっかり おぼえましょう。
○学習の目安は、60分 以上

宿題

○先生から 出された 課題を やりましょう。
★音読、プリント、ドリル、日記など。
★ていねいに 取り組みましょう。

一人勉強

※自分で やることをきめて 取り組みます。
※先生から 宿題として 出ることもあります。

【一人勉強の例】

| | |
|---|--|
| <p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日記（習った漢字や言葉をつかう） ・授業（ゆっくりていねいに） ・言葉の意味調べ ・読書 ・本を読んだ感想 ・新聞やニュースなどで気になったことについて感想 <p>算数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題づくり（絵や文章を組み合わせてつくる。また、同じ材料を使って何通りかの問題をつくってみよう。) ・大切なポイントをまとめよう。 （公式、計算の仕方、図形の性質や用語などをノートにまとめる。) | <p>社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをまとめよう。（大切なポイントを整理しよう。疑問に思ったことを調べよう。) ・資料を活用しよう。（絵や図表、グラフ、地図などから分かったことを自分の言葉でまとめよう。) <p>理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをまとめよう。（大切なポイントを整理しよう。疑問に思ったことを調べよう。) ・実験、観察についてまとめよう。（目的、方法、用具、手順、結果、まとめなどをもう一度整理しよう。) <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストの問題の復習 ・リコーダーの練習。また、記号を覚え、暗唱書きができるようにする。 |
|---|--|

○チャレンジ週間の取り組み（資料6）

| チャレンジテスト週間 取り組みカード (5年1組・番) | | | | | | |
|----------------------------------|----|----|---|-------------------------------|--|----------------|
| チャレンジテストの目標: 100点目指して毎日漢字を一勉強する。 | | | | | | |
| 月 | 日 | 曜日 | 今日の家庭学習のめあて (どうやって覚えるか作戦を考えようといひですね) | 家庭学習 よくできた できた がんばろう | 勉強中はノーメディア *勉強中、テレビを流したり、ゲームやインターネットをやったりしない。 | お家の人の印 先生の印 |
| 6 | 20 | 火 | 一勉強に漢字を2ページ書く。 | ◎ | できた・できない | ? 印 |
| 6 | 21 | 水 | 100点目指し、家でも練習する。 | ◎ | できた・できない | ◎ 印 |
| 6 | 22 | 木 | 一勉強に1ページでも書き漢字を覚える。 | ◎ | できた・できない | ◎ 印 |
| 6 | 23 | 金 | 漢字を家でもやり、100点を目標 | ◎ | できた・できない | ♡ 印 |
| 6 | 24 | 土 | 宿題でなくても漢字を書く。 | ◎ | できた・できない | ♪ 印 |
| 6 | 25 | 日 | 100点を取れるように、家でも漢字を | ◎ | できた・できない | ☺ 印 |
| 6 | 26 | 月 | 100点を取れるように、家でも漢字を | ◎ | できた・できない | 🍒 印 |

反省(テストが終わったら学校で書きます。)(どうやって学習したか学習。より書けば書ける。)
家で勉強(自分の力を出したいと思います。努力は必ず成果につながる。)
おうちのひとから(※取り組み記録(6/26)お家の方からの感想もいただけるとうれしいです。)
がんばって取り組んでいました。

＜資料5＞

授業と家庭学習の連動を図るために、手引きを年度初めに各家庭に配布し、家庭学習の目的や一人勉強の例等を示した。

＜資料6＞

漢字・計算などの基礎基本の定着のため、各学期にノーメディア週間と合わせて取り組んだ。学力向上通信で取り組みの様子を知らせ、家庭との情報の共有を図るとともに、次回への意欲喚起につなげた。

○全校で統一した家庭音読

家庭の協力を得て、音読のねらいを達成するために、「はっきり」「すらすら」「大きな声で」をめあてに音読の取り組みを行った。

<主な参考文献>

- ・文部科学省 「小学校学習指導要領」
- ・文部科学省 「小学校学習指導要領解説国語編」
- ・文部科学省 「言語活動の充実に関する指導事例集」(小学校版)
～思考力, 判断力, 表現力等の育成に向けて～
- ・国立教育政策研究所 「評価規準の作成, 評価方法の工夫改善のための参考資料」
「全国学力・学習状況調査を活用した授業アイデア例 小学校編」
- ・岩手県立総合教育センター 「小・中・高等学校国語科授業づくりガイドブック『読むこと』編」
(Ⅰ 理論編 Ⅱ 実践編 Ⅲ 資料編 2015 版)
- ・水戸部修治著 「単元を貫く言語活動 授業づくり徹底解説&実践事例 24」(明治図書)
「小学校国語科言語活動パーフェクトガイド」(明治図書)
- ・白石範孝著 「小学校国語授業でもできる問題解決学習実践モデル」(学事出版)
「おいしい国語授業レシピ」(文溪堂)
- ・樺山敏郎著 「小学校国語科授業&言語活動プラン 30」(明治図書)
- ・香月正登・長安邦浩編著 「3つの視点で実現する! アクティブ・ラーニング型発問づくり
—『自分の考え』を育てる読みの授業の新提案—」(明治図書)
- ・瀬川榮志編著 「これだけは身につけたい国語科基本用語」(明治図書)
- ・盛岡市立城南小学校学校公開研究会研究紀要 平成 27 年度
- ・盛岡市立桜城小学校学校公開研究会研究紀要 平成 28 年度
- ・九戸村立伊保内小学校学校公開研究会研究紀要 平成 27・28 年度